

(別記様式第3号)

## 普及活動検討会実施報告書

(仙台) 農業改良普及センター

実施月日：平成30年9月4日

実施場所：JAあさひな宮農総合センター

(単位：人)

### 1 検討内容

No	検討項目
(1)	平成30年度普及指導計画について
(2)	検討課題 ※平成30年度完了課題 No5 安定供給が可能なブルーベリー産地及び新たな果樹産地の育成について
(3)	検討課題 ※平成30年度完了課題 No1 仙台東部における土地利用型農業法人の経営体質の強化について
(4)	報告課題 ①No2 省力化技術導入による大規模土地利用型経営体の生産性向上 ②No3 多様な担い手による園芸を軸とした中山間地域農業の実現 ③No4 生産組織での新規作型の導入によるねぎ作期拡大

### 2 検討委員の構成

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	
若手・女性農業者	2	学識経験者	1
市町村	5(6)	マスコミ	
農業関係団体	2	民間企業	

※( ) 計画委員数

### 3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果(コメント, 評価表の要約)	普及センターとしての対応方向
(1) 平成30年度普及指導計画について	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域, 対象品目, 分野(作業管理, 作付体系, 経営管理等)どれもバランスよく指導計画がまとまっている点は高く評価できる。</li> <li>農業者のネットワークを有効に活用できると普及活動の効率性はさらに高まることが期待できる。そのような観点から見れば, 若い農業者や女性を積極的に普及活動の中に取り込んでいくことが重要である。</li> <li>厳しい農業情勢を考えると担い手問題を課題に組み込んでほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>頂いた評価を今後の普及活動の参考にさせて頂くとともに次年度の普及指導計画作成時の参考とさせて頂きます。</li> </ul>
(2) 検討課題 No5 安定供給が可能なブルーベリー産地及び新たな果樹産地の育成について	4.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>果樹産地の育成はなかなか進んでいない中着実に成果を上げている。</li> <li>目標値として出荷量を挙げているが, いずれは収益性(初期投資額, 労働生産性)についても算出し, マニュアルに盛り込むとさらなる普及促進が期待できる。</li> <li>かん水装置がさらに, 普及できれば収量も多くなるのではないかと。</li> <li>新しい品目の導入は地域活性化に必要である。</li> <li>果樹や野菜は販路の確保がされずに収量だけを増やす傾向もあるため, 新規の場合には販路確保も課題として栽培中から進めてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>収益性について, 試算し, 今後の活動に活かしたいと思います。</li> <li>かん水装置の有効性について普及を図っていきたいと思います。</li> <li>販路の確保につきましては, 現在も関係機関と調整を図っており, 今後も引き続き連携して参ります。</li> </ul>
(3) 検討課題 No1 仙台東部における土地利用型農業法人の経営体質の強化について	4.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの法人経営体において, 経営計画を作成した点や弱い部分である経営について, 検証や研修によって強化されていることは高く評価できる。</li> <li>どの法人も高齢化により, 将来像が見えていないように感じたので, 法人の継続のためには後継者問題も含めた取組をしてはどうか。</li> <li>経営体として収入を確保し, 雇用を守ることができないと, そもそも継承すべき「経営」の中身がない組織になってしまうので, 販売管理, 労務管理等を徹底し,</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>後継者及び雇用就農者の育成, 経営管理の体制整備等, 頂いた意見を対象法人の実情に合わせながら, 引き続き支援を行って参ります。</li> </ul>

		<p>経営管理をしっかりと実施していく体制も同時に進めていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用就農者への事業継承には、農村コミュニティとの関係が重要であるので、特に、日本型直接支払（多面的機能、中山間直接支払等）の活動参加を含めた事業継承計画の検討が必要。</li> <li>・土地利用型農業経営体の強化品目として、ぜひ、稲作を含めた提案をお願いしたい。</li> </ul>	
<p>(4) 報告課題 ①No2 省力化技術導入による大規模土地利用型経営体の生産性向上</p>	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初年度の活動であるが、より良い方向に進んでいると感じる。直播栽培での雑草防除は他の経営体で苦慮しているの、試験結果を公表してもらえると他の経営体でも活用できるので、ぜひ、公表してほしい。</li> <li>・水稲直播及び大豆の栽培技術の指導の効果が表れているが、従業員が通年で従事する事業の創出が必要と思われる。</li> <li>・省力技術により労働時間が短縮されても、他の業務に掛かる時間が増えてしまった場合、本末転倒になりかねない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動で得た結果等を他地域や経営体へ普及・共有できるように対象法人の了解のもと取りまとめていきたいと思えます。</li> <li>・頂いた意見を参考に引き続き支援を図って参ります。</li> </ul>
<p>②No3 多様な担い手による園芸を軸とした中山間地域農業の実現</p>	3.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中山間地域のように条件が悪いところでいかに農業を振興していくかは、重要な課題である。中山間地域に合った農業普及モデルが生まれてくることを期待している。</li> <li>・新品種の導入で新たに園芸栽培に取り組む生産者が増え、園芸振興の活性化に繋がることを期待する。</li> <li>・イノシシ対策については、広域的な課題で粘り強い対応が必要であると思う。</li> <li>・カラーミニトマトは女性農業者を中心に取り組んでいる点が非常に良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頂いた意見を参考に引き続き支援を図って参ります。</li> </ul>
<p>③No4 生産組織での新規作型の導入によるねぎ作期拡大</p>	4.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春どりや夏秋どりを取り入れ、作期拡大を図った点は高く評価できる。</li> <li>・作付体系の変更を単価の上昇につなげることが大事になってくるので、JAあさひなの協力を得て、販売力強化を進めてほしい。</li> <li>・継続的な栽培技術指導による品質の向上と安定供給による生産団地化に期待いたします。</li> <li>・産地拡大にむけ、新規作型も重要であるが、作業の省力化も重要であるので、メーカー等と連携した省力技術支援も必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頂いた意見を参考に引き続き支援を図って参ります。</li> </ul>
<p>その他 御意見、御要望やお気づきの点がありましたら記載して下さい。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討委員会のメンバーに農業士の方が増えたことは良い。</li> <li>・農業者同士の交流、成果発表、農業者による政策提言等、農業者の声を聞く機会をふやしてほしい。</li> <li>・女性中心（女性の多い職場）の法人化、女性ならではのアイデア等も支援対象としてはどうか。</li> <li>・農業問題の根幹でもある後継者問題や法人化や6次化をする上で重要な販路を踏まえた検討がなされていないように感じた。</li> <li>・農業経営者は1次と3次の取組はしやすいが、2次への取組は、技術や設備が必要であるため取組が難しく進んでいない現状である。農商工連携も視野に入れた活動も必要ではないか。</li> <li>・生産量の増加だけでなく、収益性にも着目して進める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頂いた評価を今後の普及活動の参考にさせて頂くとともに次年度の普及指導計画作成時の参考にさせて頂きます。</li> </ul>